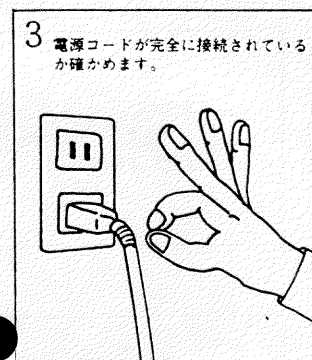
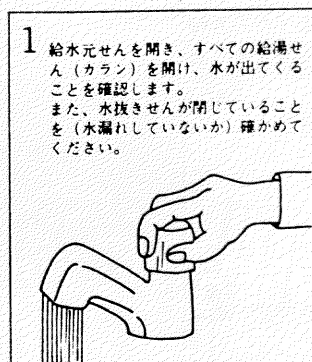


取 扱 い 編

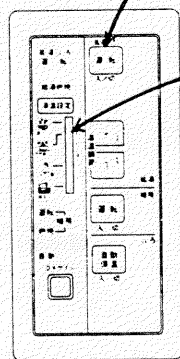
Ⅲ 取扱編

§ 1. FT-247RFA-A, FFA-Aの使用法

使用準備です

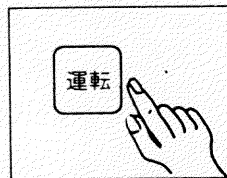


給湯します

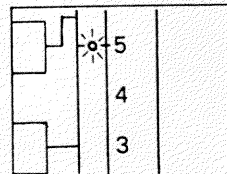


〈メインリモコン RC-208M〉

1 給湯ふろ運転スイッチを「入」にします。
（フロリモコンでもかまいません）
運転ランプ、湯温設定ランプ、OKサインが点灯します。

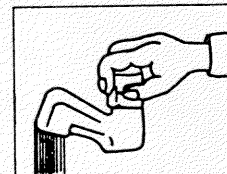


2 湯温表示ランプが設定した位置で点灯します。



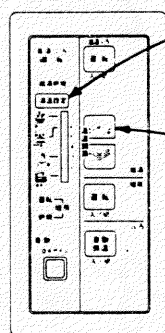
3 カランを開ければお湯が出ます。

給湯燃焼ランプ（赤色）が点灯します。
使用後、給湯せんを閉じると、給湯燃焼ランプが消えます。



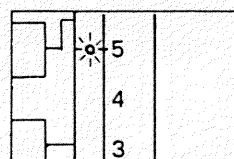
湯温調節をします

《メインリモコンで湯温調節する時》



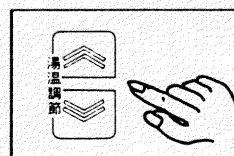
〈メインリモコン RC-208M〉

1 湯温設定ランプの点灯を確かめます



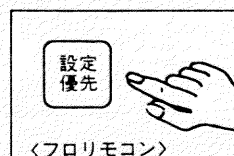
2 湯温調節スイッチを押します

湯温調節スイッチで湯温を設定します。△側を押すと高温に、▽側を押すと低温になります。



3 湯温表示ランプが点灯しない場合

フロリモコンの「設定優先」スイッチを「切」と、メインリモコンの湯温調節ランプが点灯します。



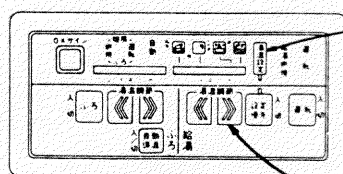
〈フロリモコン〉

■湯温設定（出湯温度は目安です）

表示	番号	出湯温度(℃)
あつ	-7	78
ややあつ	-6	50
	5	46
	4	44
シャワー等	-3	42
	2	40
ぬる	-1	38

出湯温度は夏など、水温の高い場合は設定温度より高くなり、冬などは設定温度より低くなる場合があります。

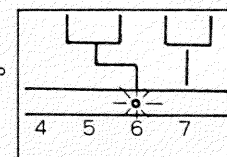
《フロリモコンで湯温調節する時》



〈フロリモコン RC-208S〉

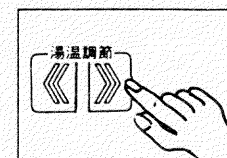
1 湯温設定ランプの点灯を確かめます。

点灯していない場合は「設定優先」スイッチを入れます。



2 湯温調節スイッチを押します

湯温調節スイッチで湯温を設定します。△側を押すと高温に、▽側を押すと低温になります。

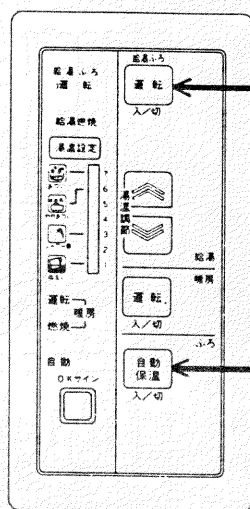


自動運転でお風呂を沸かします

スイッチひとつでお風呂沸かしが OK そののち
自動で補水・保温します。

本器は、メインリモコン、フロリモコンの
両方から自動運転でお風呂を沸かせます。
浴槽に水を張ったり、湯加減を見たりする
必要はありません。
リモコンの自動保温スイッチを押すだけで

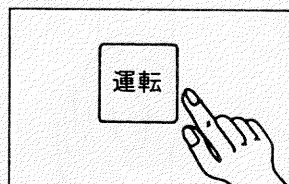
適温、適量のお湯を張り、沸き上げるとブ
ザーでお知らせ。
また、自動保温スイッチを押してから4時
間は、お湯が減ったり、冷めたりすると自
動的に補水・保温します。



〈メインリモコン RC-208M〉

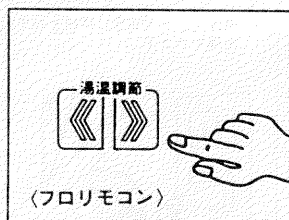
1 メインリモコン (フ
ロリモコン) の給湯・ふ
ろ運転スイッチを
押します。

運転ランプ (緑色) が点灯しま
す。



2 お風呂の沸き上が
り温度を設定しま
す。

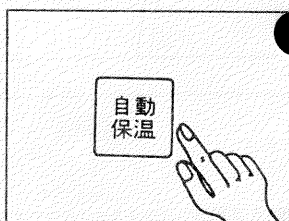
お風呂の沸き上がり温度の設定
はフロリモコンでします。これ
は一度設定しておく、入浴す
るたびに設定し直す必要がない
ので便利です。》を押すと高温
側へ、《 側を押すと低温側へラ
ンプが移動します。



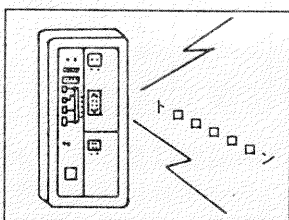
3 メインリモコン (フ
ロリモコン) の自動保温
スイッチを押します。

フロリモコンの設定湯温のお湯
が浴槽の循環口から設定水位ま
で注水され、その後、自動的に
補水・保温します。

(注) 燃焼ランプが自動運転中に
消灯することがありますが
異常ではありません。



4 設定温度になると
メインリモコンの
ブザーが沸き上
りを知らせます。

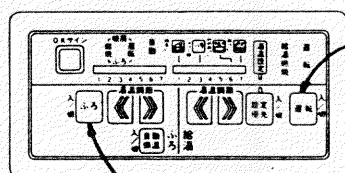
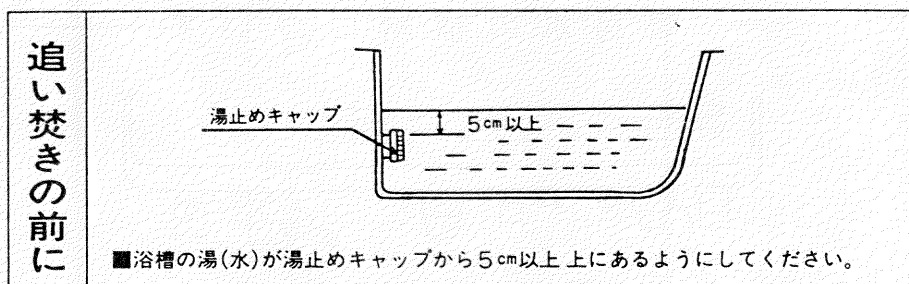


保温または、補水しない場合は、必ず自動
保温スイッチを「切」にし、自動保温ラン
プの消灯を確認してください。

お風呂の追い焚きをします

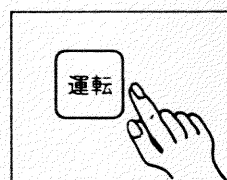
●メインリモコン・フロリモコン双方から追い焚きOK

自動保温スイッチを入れます。ちょっと熱いお風呂に入りたいときは、下記の手順でわけてください。

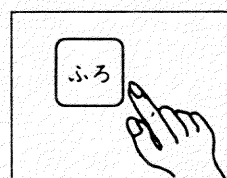


〈フロリモコン RC-208S〉

- 1 給湯ふろ運転スイッチを「入」にします。
(フロリモコンでもかまいません)
運転ランプ、湯温設定ランプ、OKサインが点灯します。



- 2 ふろスイッチを押します。
ふろ燃焼ランプ(赤色)が点灯し、追い焚きが始まります。



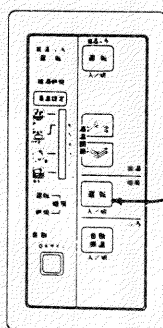
- 3 設定温度になると自動的に追い焚きストップします。
ふろ燃焼ランプは消灯します。
※設定温度の目安を参考にして沸き上がり温度を決めてください。

設定温度の目安

番 号	沸き上がり温度℃
7	50
6	45
5	43
4	42
3	41
2	40
1	38

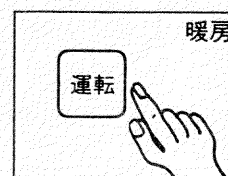
暖房をします

●放熱機(暖房)の取扱説明書もご覧ください。



〈メインリモコン RC-208M〉

- 1 メインリモコンの暖房運転スイッチを「入」にします。
暖房運転ランプ、暖房燃焼ランプが点灯します。
フロリモコンのふろ・暖房燃焼ランプも点灯します。



- 2 暖房する部屋の放熱機つまみをお好み温度に合わせてください。

(ご注意) ●放熱機の運転スイッチの「入」「切」で器具の暖房運転・暖房停止を行なうタイプの放熱機をお使いの場合は、メインリモコンの暖房運転スイッチが「切」のままでも放熱機の運転スイッチを「入」にすると器具は暖房運転になります。この時メインリモコンの暖房運転ランプ、暖房燃焼ランプは点灯しません。

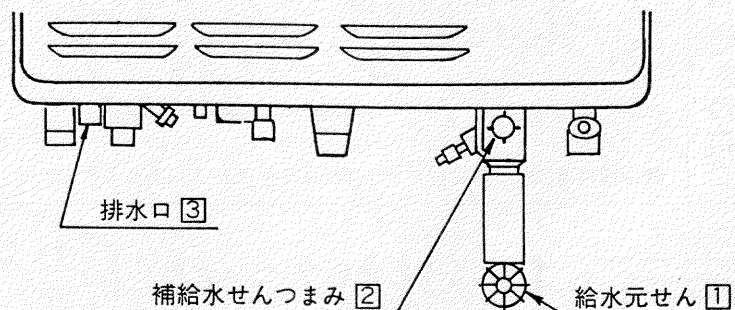
●暖房運転中に追い焚きを行ないますと暖房能力が低下しますので放熱機の温風が停止する場合がありますが異常ではありません。

※フロリモコンのみでお使いの場合、放熱機の運転スイッチで暖房運転、停止を行なってください。暖房運転の確認は暖房燃焼ランプの点灯で行なってください。

暖房運転ランプの点滅
OKサイン「E」が点灯する

暖房運転ランプが点滅した場合やOKサインに「E」が点灯した場合は暖房水が不足しています。このままでは「暖房」「ふろ」とも使用できませんので暖房水の補給をしてください。

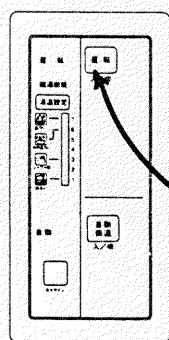
暖房水の補給について



- フロリモコンのOKサインが「E」を点灯している場合やメインリモコンの暖房運転ランプが点滅している場合は、暖房水が不足しています。そのままでは、暖房やふろ沸しができませんので、次の要領で暖房水を補給してください。
 - ①給水元せん①が開いていることを確認してください。
 - ②器具下部の補給水せんつまみ（白いつまみ）②を左へ一杯まわしてください。暖房水が補給されますので、しばらくお待ちください。
 - ③排水口（オーバーフロー口）③より水がでてくれば満水ですので補給水せんつまみ②を右へ一杯まわしてしめてください。

サブリモコンで給湯・お湯張り（自動保温）をします

給湯



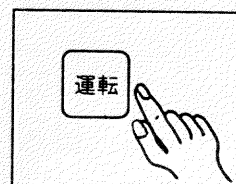
〈サブリモコン RC-203A〉

居間や寝室からお風呂沸かしがOK
サブリモコンは運転スイッチと自動運転スイッチの「入・切」でお風呂を沸かすことができます。

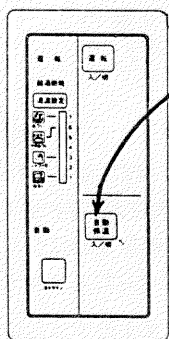
- 1 運転スイッチを押します。

給湯は、メインリモコンの方法と同じです。

※湯温の調節はできません。
湯温の調節はメインリモコン・フロリモコンで行ってください。



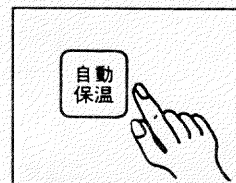
お風呂



〈サブリモコン RC-203A〉

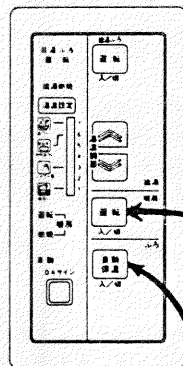
- 1 自動保温スイッチを押します。

自動保温ランプが点灯し、自動運転を開始します。
フロリモコンの設定温度のお湯が浴槽の循環口から設定水位まで、注水され、その後は自動的に保温・補水します。
自動運転を中止する場合は自動保温スイッチを「切」にします。（自動運転終了後4時間有効です。）



使用後について

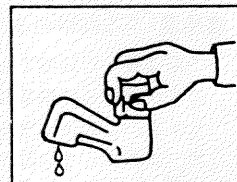
使用後



＜メインリモコン 208M＞

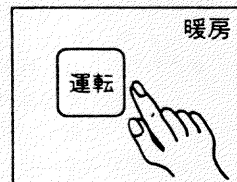
1 カランを閉じます。

使用後、給湯せんを閉めれば、自動的に火が消えます。
給湯せんを完全に閉めて、お湯の出を止めてください。



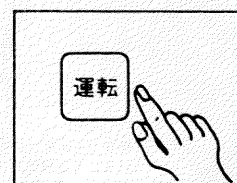
2 暖房運転スイッチを切ります。

暖房燃焼ランプ、暖房運転ランプの消灯を確認してください。



3 自動保温スイッチを切ります。

保温または補水しない場合は、必ず自動保温スイッチを押し、「切」にし、自動保温ランプの消灯を確認してください。



切る！

停電後の使用方法

使用をいったん中止し、通電後、各々の操作をします。
※再使用時には湯温設定、沸き上がり温度を再度設定してください。

長時間使用しない場合

就寝前や長時間使用しない場合は、運転スイッチを「切」にし、ガスの元せんを開けてください。

OKサインの表示について

この器具は60分以上連続給湯すると、燃焼が停止し、OKサイン「5」が点滅します。
この時は、いったん運転スイッチを切り、数秒待った後、再び運転スイッチを「入」にします。

表示ナンバー	点灯／点滅	内 容	対 処	備考
0	点 灯	通常 0 が表示されます。 (運転スイッチ ON で表示します) 但し、配管等の異常で器具内のコントローラでわからないものがあります。	—	—
1	点 灯	入水温の検知装置の不具合	—	※
2	点 灯	出湯温の検知装置の不具合	—	※
3又はE	点 灯	炎(燃焼)感知装置の不具合	運転スイッチをいったん「切」にし数秒まって再度「入」にして 0 になれば異常ではありません。	※
5	点 滅	60分以上連続給湯した場合に点滅します。	—	—
6又はL	点 滅	器具の不具合を感知して安全動作の状態になっています。	ガス元せん(ガスボンベ)が開いているか調べてください。 又過熱防止装置の作動している場合があります。	—
7又はP	点 滅		—	※
8	点 灯	能力最大又は能力最小で燃焼しています。	湯があつい場合は湯温設定を高温側又は湯量を多く(カランを全開にする)またぬるい場合は湯温設定を低温側又は湯量を少なく(カランをしぼる)して「0」になれば異常ではありません	—
9	点 灯	水温の検知装置の不具合(暖房・風呂側)	—	※
U	点 滅	器具の不具合を感知して安全動作の状態になっています。	—	※
C	点 灯	暖房水の不足(暖房・風呂側)	暖房水を補給する。 (52ページ参照)	—
F	点 灯	自動運転の不具合(風呂側)	—	※

(ご注意)

※印又は不明な場合はお買い求めの販売店又はサービス会社・弊社支店・営業所へ表示ナンバーをご連絡ください。

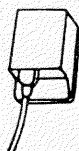
冬期の凍結による破損防止について

■給湯・ふろ回路の凍結予防

冬期は暖かい地域でも給水・給湯配管の水が凍結し破損事故が起こることがあります。このような事故を防止するため、次のような処置をお取りください。

(1)凍結予防ヒーターとポンプ運転による方法

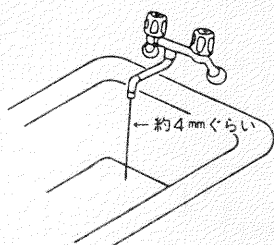
- この器具には、外気温がさがってくると自動的に器具内を保温するヒーターと、自動ポンプ運転装置を組み込んでいます。
- 器具の電源プラグが抜けているとヒーターは動きませんのでご注意ください。また浴そうの残り湯も抜かないでください。
- 外気温が極端に低い場合（-15℃以下）は凍結防止ができなくなります。



（電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認してください。）

(2)通水による方法

- この場合は器具本体だけでなく、給水給湯配管、バルブ類の凍結予防もできます。ただし、浴そうへの追だき配管には効果がありませんので浴そうの残り湯は捨てないでください。また、器具の電源プラグも抜かないでください。
- ①ガスの元せんをしめる。
- ②おふろ場の給湯せんをあげ1分間に400cc（牛乳ビン2本ぐらい）を浴そうに流し込んでください。



※流量が不安定なことがありますので、念のため30分ぐらい後にもう一度流量を確認してください。

(3)水抜きによる方法

※ふろ側から先に水抜きを行なってください。

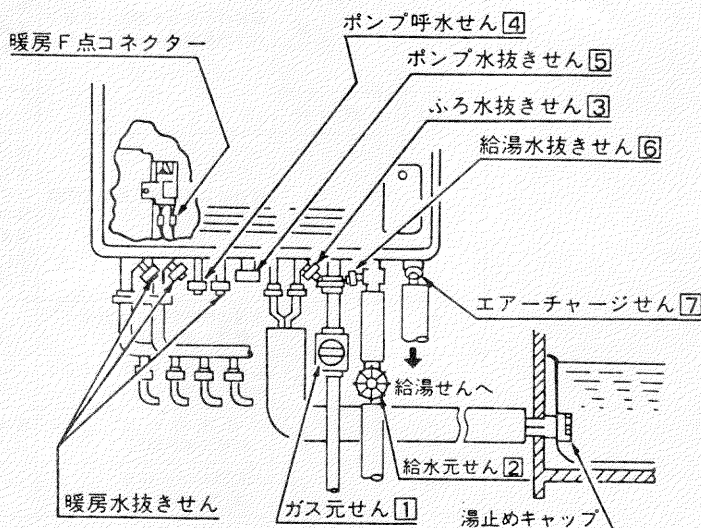
- 〔ふろ側〕
- ①浴槽の水を排水する。
 - ②リモコンの運転スイッチを押す（運転ランプ点灯）次に、ふろスイッチを押し、湯止めキャップより水が出ることを確認、5分程そのままにする。（2階浴室など浴槽が器具より高い位置にある場合は、ふろ水抜きせん③を左にまわしてあけた後、ふろスイッチを押し、ふろ水抜きせん③より水が出てくることを確認する。）
 - ③上記の排水の完了を確認後、運転スイッチを押し、運転ランプの消灯を確認する。
 - ④ガスの元せん①をしめる。
 - ⑤ポンプ水抜きせん⑤、ポンプ呼び水せん④をあける。
- ※ふろ側の水抜きを行なった後は浴槽に水を流し込まないでください。

- 〔給湯側〕
- ①ガスの元せん①をしめてあるのを確認する。
 - ②給水元せん②をしめる。
 - ③すべての給湯せんを全開にする。
 - ④給湯水抜きせん⑥を左にまわしてあける。
 - ⑤エアーチャージせん⑦を左にまわしてあける。
 - ⑥ふろ自動保温スイッチを押し、（ふろ自動保温ランプ点灯）しばらくして（1分程度）運転スイッチを「切」にし、電源プラグを抜く。
- 以上の操作で器具内の水は排水されますので、ポンプ水抜きせん⑤と給湯水抜きせん⑥より水が出てくることを確認し、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

(4)再使用する場合

- 〔給湯側〕
- ①給湯水抜きせん⑥、エアーチャージせん⑦およびすべての給湯せんをしめる。
 - ②給水元せん②をあけてすべての給湯せんから水が出るのを確認する。

- 〔ふろ側〕
- ①ポンプ呼び水せん④を左にまわしてあけた後、ふろ水抜きせん③とポンプ水抜きせん⑤をしめる。
 - ②ガスの元せん①をあけ、電源プラグをコンセントに差し込む。
 - ③リモコンのふろ自動保温スイッチを押し（ふろ自動保温ランプ、給湯燃焼ランプ点灯）、しばらくして（3分間程度）、ポンプ呼び水せん④より湯が出てくるのを確認する。
- ※この時、給湯燃焼ランプが一時消灯する場合がありますが異常ではありませんので、そのままにしておいてください。
- ④ポンプの呼び水せん④をしめ、湯止めキャップより湯が出てくるのを確認する。
 - ⑤浴槽に水を張る。（自動運転のまま湯を張ってもかまいません。）
 - ⑥ふろ自動保温スイッチを押し（自動保温ランプ消灯）、約30秒待ってから、ふろスイッチを押すと、湯止めキャップより気泡が出た後、正常循環になり、ふろ・暖房燃焼ランプが点灯する。
- 以上の操作を行ってからご使用ください。



■ 暖房回路の凍結予防

(1) 暖房ポンプの運転による方法(自動)

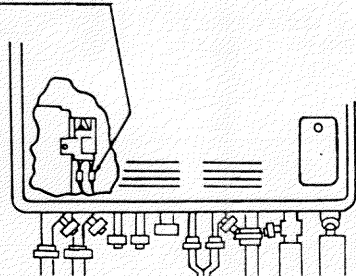
①すべての放熱機の暖房水回路をあけてください。(放熱機の取扱説明書を参照してください。)

②気温が低くなると自動的にポンプ運転が始まり、暖房システム内の水を循環させて凍結を予防します。

※暖房F点コネクターが接続されていることを確認してください。

接続されていない場合は外気温が下がってもポンプは運転しません。又、電源プラグが抜けている場合もポンプは運転しませんので注意してください。

暖房F点コネクター



(2) 不凍液による方法

- 暖房システムの凍結予防のため弊社指定の不凍液を使用してください。指定以外の不凍液は機器に悪い影響をあたえる場合がありますので使用しないでください。
- 不凍液の取扱いについては不凍液の取扱説明書に記載してある方法で正しくご使用ください。

日常の点検・手入れ

●いつでも安全・快適にご使用いただくため、日ごろの点検・手入れを行ってください。

点検・手入れの際のご注意

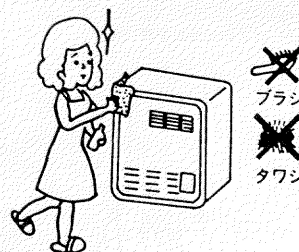
- 点検・手入れの前には必ずガスの元せんを閉じ、電源プラグをコンセントから抜き器具が冷えてから行なってください。
- 安全装置及び、ガスの通路部分は絶対に分解しないでください。

点 検

- ①器具周辺に可燃物など燃えやすいものを近づけないようにしてください。
- ②給水・給湯配管部より水漏れがないか点検してください。
ガス配管部からガス漏れしていないか時々、石ケン水などで点検してください。
- ③給湯せんの先端に泡沫器が内蔵されているものについては、時々、内部のフィルター(金網)を掃除してください。泡沫器の使用はなるべくさけてください。

お手入れ

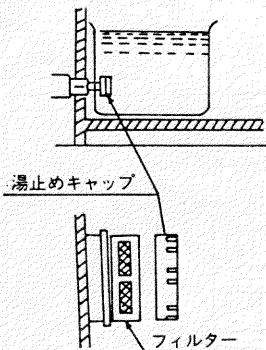
- ①リモコンと本体外装の掃除は、やわらかい布に、中性洗剤をひたし、軽く拭いてください。
(タワシやブラシなどでこすらないよう注意してください。)



②循環金具のフィルター掃除

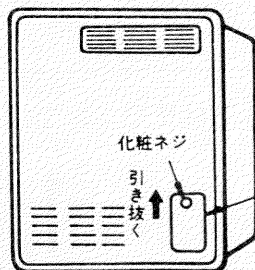
浴そう内の湯止めキャップを外し、内部のフィルターを月1回以上掃除してください。

※なおフィルターの掃除をしたあとは必ず、もとのように取り付けてください。

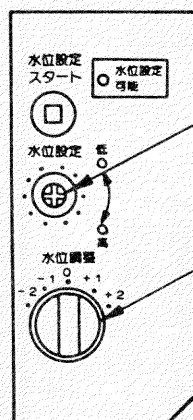


浴そうの水位調整について

- ①器具の水位調整蓋をぬいてください。
化粧ネジをはずし引き抜いてください。
- ②水位調整つまみを操作して浴そうの水位を合わせてください。



水位調整蓋



(このネジはさわらないでください。)

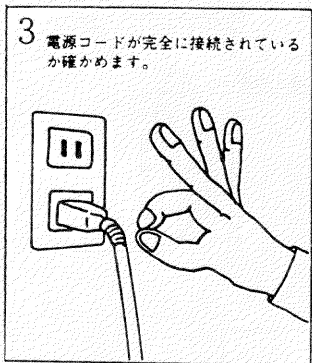
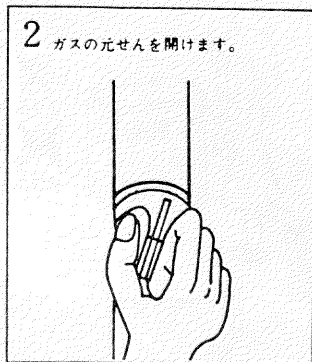
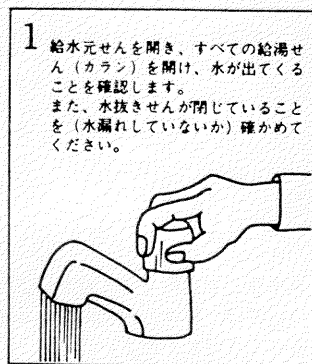
水位調整つまみ
設定水位より
+1 5cmアップ
+2 10cmアップ
-1 5cmダウン
-2 10cmダウン
となります。

不凍液についてのご注意

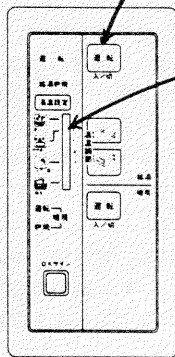
- 不凍液は2年に1度交換が必要です。お買い求めになった販売店又は弊社支店・営業所・サービス会社にご相談ください。

§ 2. FT-247RFA,FFAの使用方法

使用準備です



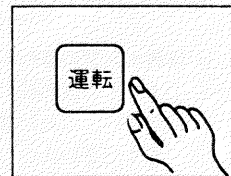
給湯します



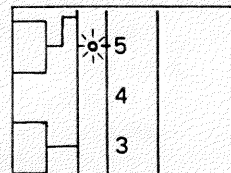
〈メインリモコン RC-209M〉

1 運転スイッチを「入」にします

（フロリモコンでもかまいません）
運転ランプ、湯温設定ランプ、OKサインが点灯します。

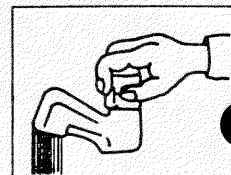


2 湯温表示ランプが設定した位置で点灯します。



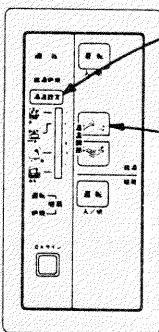
3 カランを開ければお湯が出ます。

給湯燃焼ランプ（赤色）が点灯します。
使用後、給湯せんを閉じると、給湯燃焼ランプが消えます。



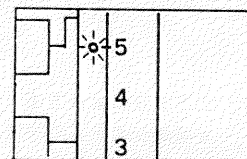
湯温調節をします

《メインリモコンで湯温調節する時》



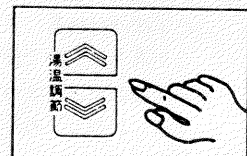
〈メインリモコン RC-209M〉

1 湯温設定ランプの点灯を確かめます



2 湯温調節スイッチを押します

湯温調節スイッチで湯温を設定します。△側を押すと高温に、▽側を押すと低温になります。



3 湯温表示ランプが点灯しない場合

フロリモコンの「設定優先」スイッチを「切」と、メインリモコンの湯温調節ランプが点灯します。



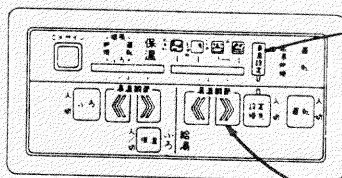
〈フロリモコン〉

■湯温設定（出湯温度は目安です）

表示	番号	出湯温度(℃)
あつ い	-7	78
ややあつ い	-6	50
	5	46
	4	44
シャワー等	-3	42
	2	40
ぬ る い	-1	38

出湯温度は夏など、水温の高い場合は設定温度より高くなり、冬などは設定温度より低くなる場合があります。

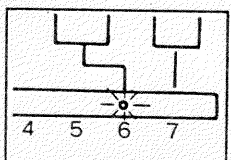
《フロリモコンで湯温調節する時》



〈フロリモコン RC-209S〉

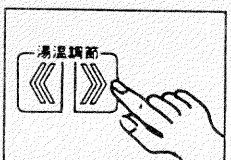
1 湯温設定ランプの点灯を確かめます。

点灯していない場合は「設定優先」スイッチを入れます。



2 湯温調節スイッチを押します

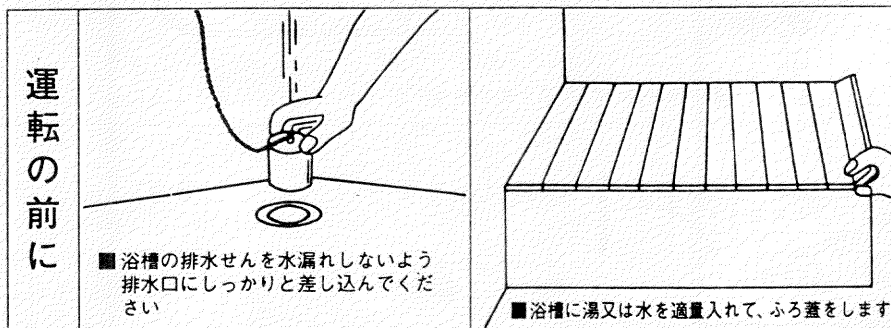
湯温調節スイッチで湯温を設定します。△側を押すと高温に、▽側を押すと低温になります。



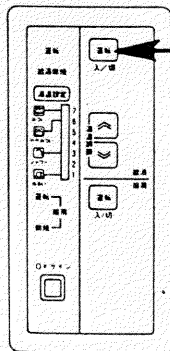
お風呂を沸かします

お風呂沸かしには2つの方法があります。
1つは浴槽に給湯してから沸き上げるの
もうひとつは浴槽に張った水から沸き上げ
る方法があります。

給湯してから沸き上げる方が早く、冬場な
ど有効です。水から沸き上げるのは反対に
時間がかかりますが、夏場など置き水をする
場合などムダなく沸き上げられます。

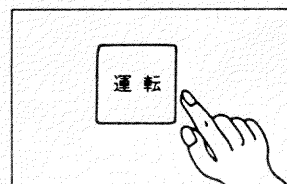


1. 給湯で沸き上げる方法



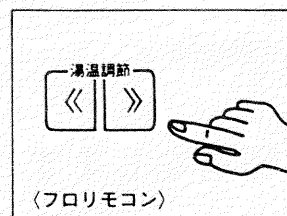
〈メインリモコンRC-209M〉

- 1 メインリモコン (フ
ロリモコン) の運転スイ
ッチを押します
運転ランプ (緑色) が点灯しま
す。



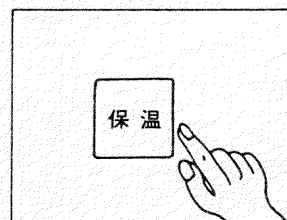
- 2 お風呂の沸き上
がり温度を設定しま
す

お風呂の沸き上がり温度の設定
はフロリモコンです。これ
は一度設定しておく、入浴す
るたびに設定し直す必要がない
ので便利です。》を押すと高温
側へ、《側を押すと低温側へラ
ンプが移動します。
浴槽に給湯 (差し湯) します。
滴水になればとめてください。



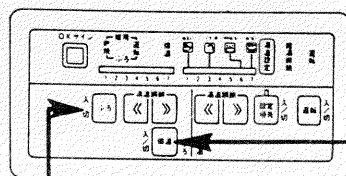
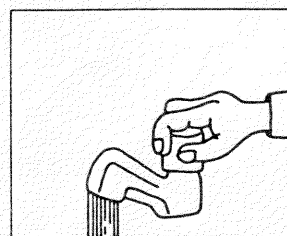
〈フロリモコン〉

- 3 フロリモコンの保
温スイッチを押しま
す



2. 水から沸き上げる方法 浴槽に水を適量張り ます

以下、沸き上げる方法は上記1・2
・3の順序で操作してください。
次にふろスイッチを「入」にしま
す。設定の沸き上がり温度になれ
ばとまります。追い焚きと同じ方
法です。

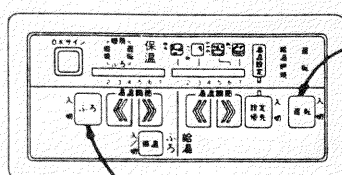
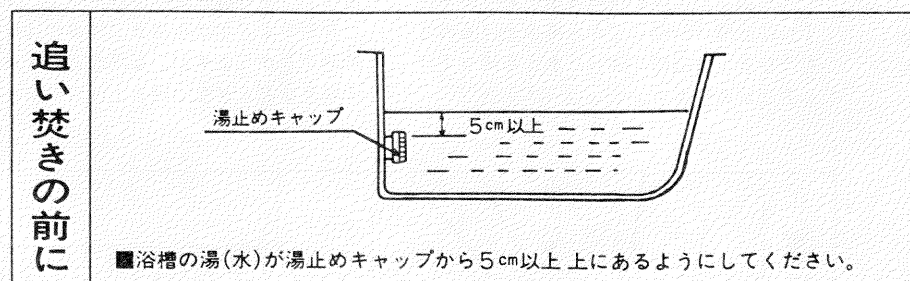


〈フロリモコンRC-209S〉

ご家族全員が短時間のうちに入浴される場合など、
保温が必要ない場合は、「保温スイッチ」を「切」
にし、保温ランプの消灯を確認してください。

お風呂の追い焚きをします

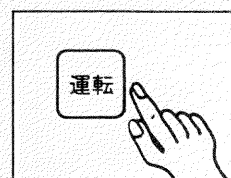
保温スイッチを入れます。ちょっと熱いお風呂に入りたいときは、下記の手順でわけてください。



〈フロリモコン RC-209S〉

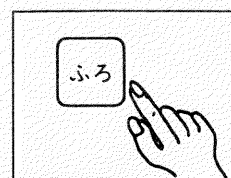
1 運転スイッチを「入」にします。

(フロリモコンでもかまいません)
運転ランプ、湯温設定ランプ、OKサインが点灯します。



2 ふろスイッチを押します。

ふろ燃焼ランプ(赤)が点灯し、追い焚きが始まります。
沸き上がり湯温調節スイッチで湯温を調節してください。



3 設定温度になると自動的に追い焚きストップします。

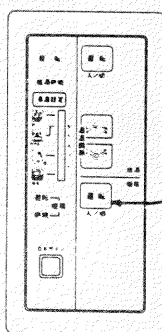
ふろ燃焼ランプは消灯します。
※設定温度の目安を参考にして沸き上がり温度を決めてください。

設定温度の目安

番 号	沸き上がり温度℃
7	50
6	45
5	43
4	42
3	41
2	40
1	38

暖房をします

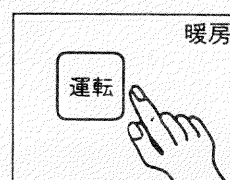
●放熱機(暖房)の取扱説明書もご覧ください。



〈メインリモコン RC-209M〉

1 メインリモコンの暖房運転スイッチを「入」にします。

暖房運転ランプ、暖房燃焼ランプが点灯します。
フロリモコンのふろ・暖房燃焼ランプも点灯します。



2 暖房する部屋の放熱機つまみをお好み温度に合わせてください。

(ご注意) ●放熱機の運転スイッチの「入」「切」で器具の暖房運転・暖房停止を行なうタイプの放熱機をお使いの場合は、メインリモコンの暖房運転スイッチが「切」のままでも放熱機の運転スイッチを「入」にすると器具は暖房運転になります。この時メインリモコンの暖房運転ランプ、暖房燃焼ランプは点灯しません。

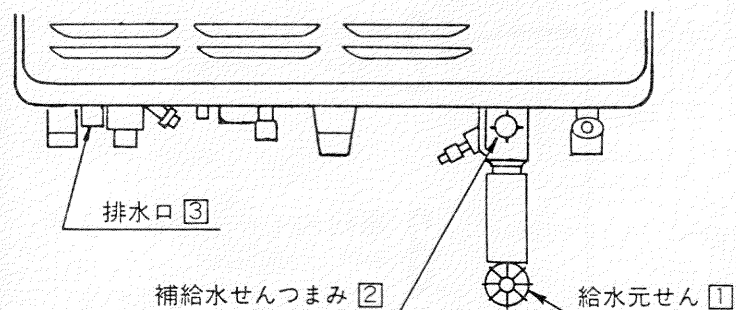
●暖房運転中に追い焚きを行ないますと暖房能力が低下しますので放熱機の温風が停止する場合がありますが異常ではありません。

※フロリモコンのみでお使いの場合、放熱機の運転スイッチで暖房運転、停止を行なってください。暖房運転の確認は暖房燃焼ランプの点灯で行なってください。

暖房運転ランプの点滅
OKサイン「L」が点灯する

暖房運転ランプが点滅した場合やOKサインに「L」が点灯した場合は暖房水が不足しています。このままでは「暖房」「ふろ」とも使用できませんので暖房水の補給をしてください。

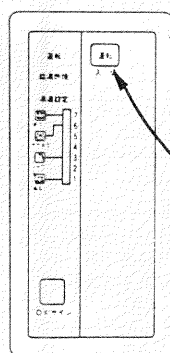
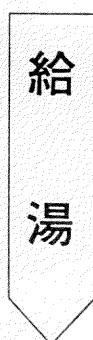
—— 暖房水の補給について ——



● フロリモコンのOKサインが「L」を点灯している場合やメインリモコンの暖房運転ランプが点滅している場合は、暖房水が不足しています。そのままでは、暖房やふろ沸しができませんので、次の要領で暖房水を補給してください。

- ① 給水元せん①が開いていることを確認してください。
- ② 器具下部の補給水せんつまみ（白いつまみ）②を左へ一杯まわしてください。暖房水が補給されますので、しばらくお待ちください。
- ③ 排水口（オーバーフロー口）③より水がでてくれば満水ですので補給水せんつまみ②を右へ一杯まわしてしめてください。

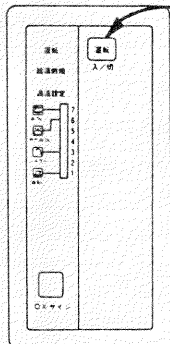
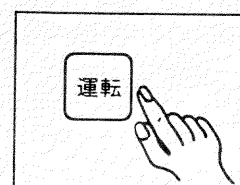
サブリモコンで給湯・お湯張り（自動保温）をします



〈サブリモコンRC-202A〉

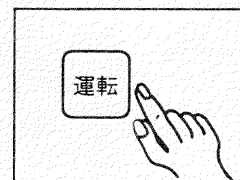
サブリモコンは運転スイッチの「入・切」ができます。

- 1 運転スイッチを押します。
給湯は、メインリモコンの方法と同じです。
※サブリモコンでは直接湯温の調節はできません。



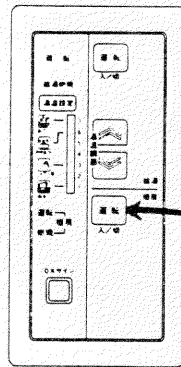
〈サブリモコンRC-202A〉

- 1 運転スイッチを押します。
差し湯・給湯ができます。



使用後について

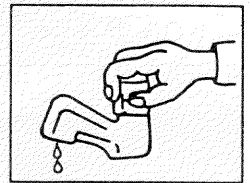
使用後



〈メインリモコン RC-209M〉

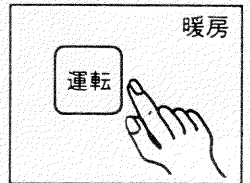
1 カランを閉じます。

使用後、給湯せんを閉めれば、自動的に火が消えます。
給湯せんを完全に閉めて、お湯の出を止めてください。



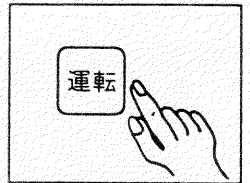
2 暖房運転スイッチを切ります。

暖房燃焼ランプ、暖房運転ランプの消灯を確認してください。



3 運転スイッチを切ります。

運転ランプの消灯を確認してください。

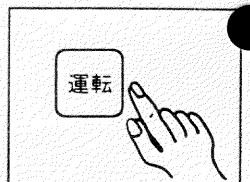


停電後の使用方法

使用をいったん中止し、通電後、各々の操作をします。
※再使用時には湯温設定、沸き上がり温度を再度設定してください。

長時間使用しない場合

就寝前や長時間使用しない場合は、運転スイッチを「切」にし、ガスの元せんを閉めてください。



OKサインの表示について

この器具は60分以上連続給湯すると、燃焼が停止し、OKサイン「5」が点滅します。

この時は、いったん運転スイッチを切り、数秒待った後、再び運転スイッチを「入」にします。

表示ナンバー	点灯 / 点滅	内 容	対 処	備考
□	点 灯	通常□が表示されます。 (運転スイッチONで表示します)但し、配管等の異常で器具内のコントローラでわからないものがあります。	—	—
1	点 灯	入水温の検知装置の不具合	—	※
2	点 灯	出湯温の検知装置の不具合	—	※
3又はE	点 灯	炎(燃焼)感知装置の不具合	運転スイッチをいったん「切」にし数秒まって再度「入」にして□になれば異常ではありません。	※
5	点 滅	60分以上連続給湯した場合に点滅します。	—	—
6又はL	点 滅	器具の不具合を感知して安全動作の状態になっています。	ガス元せん(ガスボンベ)が開いているか調べてください。又過熱防止装置の作動している場合があります。	—
7又はP	点 滅	—	—	※
8	点 灯	能力最大又は能力最小で燃焼しています。	湯があつい場合は湯温設定を高温側又は湯量を多く(カランを全開にする)またぬるい場合は湯温設定を低温側又は湯量を少なく(カランをしぼる)して「8」になれば異常ではありません。	—
9	点 灯	水温の検知装置の不具合(暖房・風呂側)	—	※
U	点 滅	器具の不具合を感知して安全動作の状態になっています。	—	※
C	点 灯	暖房水の不足(暖房・風呂側)	暖房水を補給する。(53ページ参照)	—

(ご注意)

※印又は不明な場合はお買い求めの販売店又はサービス会社・弊社支店・営業所へ表示ナンバーをご連絡ください。

冬期の凍結による破損防止について

■給湯・ふろ回路の凍結予防

冬期は暖かい地域でも給水・給湯配管の水が凍結し破損事故が起こることがあります。このような事故を防止するため、次のような処置をお取りください。

(1)凍結予防ヒーターとポンプ運転による方法(自動)

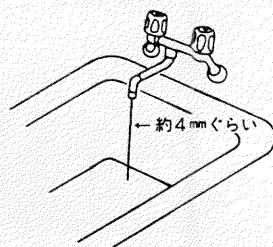
- この器具には、外気温がさがってくると自動的に器具内を保温するヒーターと、自動ポンプ運転装置を組み込んでいます。
- 器具の電源プラグが抜けているとヒーターは動きませんのでご注意ください。また浴そうの残り湯も抜かないでください。
- 外気温が極端に低い場合(−15℃以下)は凍結防止ができなくなります。



(電源プラグがコンセントに差し込まれていることを確認してください。)

(2)通水による方法

- この場合は器具本体だけでなく、給水給湯配管、バルブ類の凍結予防もできます。ただし、浴そうへの追だし配管には効果がありませんので浴そうの残り湯は捨てないでください。また、器具の電源プラグも抜かないでください。
- ①ガスの元せんをしめる。
- ②おふろ場の給湯せんをあけ1分間に400cc(牛乳ビン2本ぐらい)を浴そうに流し込んでください。



※流量が不安定なことがありますので、念のため30分ぐらい後にもう一度流量を確認してください。

(3)水抜きによる方法

※ふろ側から先に水抜きを行なってください。

- 〔ふろ側〕
- ①浴槽の水を排水する。
 - ②リモコンの運転スイッチを押す(運転ランプ点灯)。次にふろスイッチを押し、湯止めキャップより水が出ることを確認、5分程そのままにする。(2階浴室など浴槽が器具より高い位置にある場合は、ふろ水抜きせん③を左にまわしてあけた後、ふろスイッチを押し、ふろ水抜きせん③より水が出てくることを確認する。)
 - ③上記の排水の完了を確認後、運転スイッチを押し、運転ランプの消灯を確認する。
 - ④ガスの元せん①をしめる。
 - ⑤ポンプ水抜きせん④をあける。

※ふろ側の水抜きを行なった後は浴槽に水を流し込まないでください。

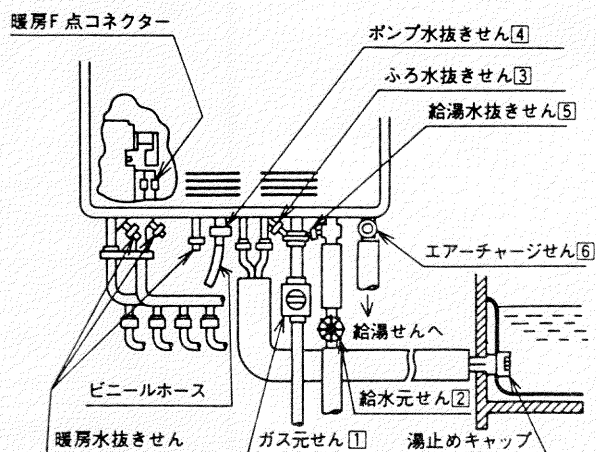
- 〔給湯側〕
- ①リモコンの運転ランプの消灯を確認し、電源プラグを抜く。
 - ②ガスの元せん①をしめてあるのを確認する。
 - ③給水元せん②をしめる。
 - ④すべての給湯せんを全開にする。
 - ⑤給湯水抜きせん⑤を左にまわしてあける。
 - ⑥エアーチャージせん⑥を左にまわしてあける。
- 以上の操作で器具内の水は排水されますので、ポンプ水抜きせん④と給湯水抜きせん⑤より出てくることを確認し、次にお使いになるまでそのままにしておいてください。

(4)再使用する場合

- 〔給湯側〕
- ①給湯水抜きせん⑤、エアーチャージせん⑥およびすべての給湯せんをしめる。
 - ②給水元せん②をあけてすべての給湯せんから水が出るのを確認する。

- 〔ふろ側〕 (ポンプの呼び水の方法)

- ①ポンプ水抜きせん④についているビニールホースの先端を給湯水抜きせん⑤に接続し、給湯水抜きせん⑤を左にまわしてポンプに水を入れる。
(約600cc・ふろ水抜きせん③より水が出るまで。)
 - ②給湯水抜きせん⑤をしめ、つづいてポンプ水抜きせん④とふろ水抜きせん③をしめる。
 - ③浴槽に水を張る。
 - ④ガスの元せん①をあけ、電源プラグをコンセントに差し込む。
 - ⑤リモコンのふろスイッチを押すと、湯止めキャップより気泡が出た後、正常循環になり、ふろランプが点灯する。(気泡が出てこない場合は、ポンプ水抜きせん④より、もう少し水を入れてから、ふろスイッチを押す。) ビニールホースは使用後、給湯水抜きせん⑤から外しておく。
- 以上の操作を行ってからご使用ください。



- ポンプへの呼水の入れ方は次の方法でも可能です。

湯止めキャップとフィルターを取外し循環金具の中心にホースを当て充分水を入れてください。(右図)



■ 暖房回路の凍結予防

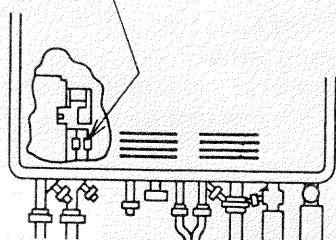
(1) 暖房ポンプの運転による方法(自動)

- ① すべての放熱機の暖房水回路をあけてください。(放熱機の取扱説明書を参照してください。)
- ② 気温が低くなると自動的にポンプ運転が始まり、暖房システム内の水を循環させて凍結を予防します。

※暖房F点コネクターが接続されていることを確認してください。

接続されていない場合は外気温が下がってもポンプは運転しません。又、電源プラグが抜けている場合もポンプは運転しませんので注意してください。

暖房F点コネクター



(2) 不凍液による方法

- 暖房システムの凍結予防のため弊社指定の不凍液を使用してください。指定以外の不凍液は機器に悪い影響をあたえる場合がありますので使用しないでください。
- 不凍液の取扱いについては不凍液の取扱説明書に記載してある方法で正しくご使用ください。

日常の点検・手入れ

- いつでも安全・快適にご使用いただくため、日ごろの点検・手入れを行ってください。

点検・手入れの際のご注意

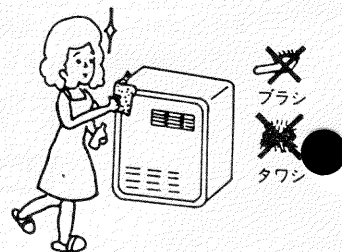
- 点検・手入れの前には必ずガスの元せんを閉じ、電源プラグをコンセントから抜き器具が冷えてから行なってください。
- 安全装置及び、ガスの通路部分は絶対に分解しないでください。

点 検

- ① 器具周辺に可燃物など燃えやすいものを近づけないようにしてください。
- ② 給水・給湯配管部より水漏れがないか点検してください。
ガス配管部からガス漏れしていないか時々、石ケン水などで点検してください。
- ③ 給湯せんの先端に泡沫器が内蔵されているものについては、時々、内部のフィルター(金網)を掃除してください。泡沫器の使用はなるべくさけてください。

お手入れ

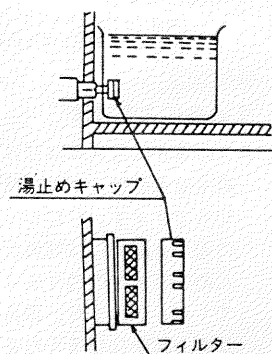
- ① リモコンと本体外装の掃除は、やわらかい布に、中性洗剤をひたし、軽く拭いてください。
(タワシやブラシなどでこすらないよう注意してください。)



② 循環金具のフィルター掃除

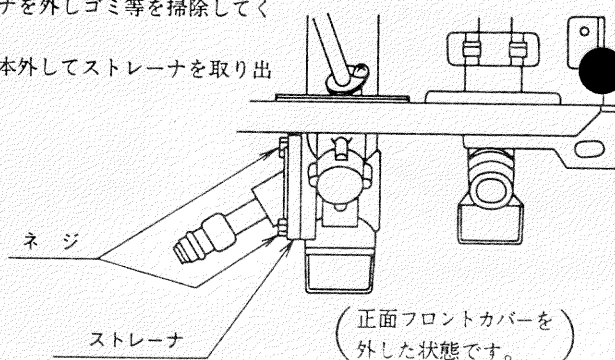
浴そう内の循環金具の湯止めキャップを外し、内部のフィルターを月1回以上掃除してください。

※なおフィルターの掃除をしたあとは必ず、もとのように取り付けてください。



③ 給水部のストレーナを外しゴミ等を掃除してください。

(金具のネジを2本外してストレーナを取り出してください。)



不凍液についてのご注意

- 不凍液は2年に1度交換が必要です。お買い求めになった販売店又は弊社支店・営業所・サービス会社にご相談ください。

§ 3. 故障・異常の見分方と処置方法

故障かな？と思ったら

現 象	原 因	対 策
運転スイッチを入れても 運転ランプは点灯しない	・電源プラグが抜けている ・停 電 し て い る ・漏 電 し て い る	・電源プラグをコンセントにしっかりと差し込む ・通電再開まで使用を中止する ・器具本体の電源コンセントをいったん抜いて差しなおす
給湯せんをあけても点灯せずOKサイン「」のランプが点滅する。	・ガスの元せんが開いていない（ボンベにガスがない） ・ガス配管中に空気が残っている ・安全装置の作動	・ガスの元せんを全開にし運転スイッチをいったん「切」にし約3秒後再度「入」にする（ボンベ交換） ・上記操作をOKサイン「」の点滅が止まるまで繰り返す ・114、121 ページ参照
全くお湯（水）が出ない	・給水元せんが開いていない	・給水元せんを全開にする
高温のお湯が出ない	・ガス元せんの開き不足 ・湯温調節のミス ・湯量が多すぎる	・ガス元せんを全開にする ・110、117 ページ参照 ・カランをしぼる
あついお湯しか出ない	・給水元せんの開き不足 ・泡沫水せんのつまり ・給水部水フィルターのゴミ ・湯温調節のミス	・給水元せんを全開にする ・掃 除 す る ・掃 除 す る ・110、117 ページ参照
使用中に温度が変動する	・他の水せん使用による水圧変動	・同時使用はさける
ふろスイッチを「入」にしてもふろ運転に入らない暖房運転スイッチを「入」にしても暖房運転しない	・暖房水が不足している	・暖房水を補給する（112、119 ページ参照）
異常燃焼している	・燃焼管に異物が付着している ・排気トップのまわりに障害物がある	・異物を掃除する（販売店等に依頼する） ・障害物を取り除く

※上記以外で故障したと思われるような場合には、そのままお使いにならないで販売店又は当社営業所・サービスセンターへご連絡ください。

こんな場合は故障ではありません

- ・冬期排気トップから白煙が出ることがありますが、異常ではありません。これは人のく息が白くなるのと同じ現象です。
- ・冬期高温出湯しようとカランをしぼるとカランから白く濁った湯が出てくることがあります。これは水の中の空気が飽和状態になって出てくるもので正体は気泡です。有害な何かが溶けたものではありません。洗面器に移しておくと透明になります。

§ 4. 長期間使用しない場合

長期間使用しない場合は電源プラグを外し、器具内の水を抜いてください。水抜き方法は 115、122 ページを参照してください。